

糸魚川市駅北まちづくり会議 第7回実践会議 記録

日時	令和2年10月15日(水) 18:30~20:30	会場	市民会館3階会議室
進行	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 駅北まちづくり戦略(案)について (2) 意見交換「わたしのまちなか大家族」 4 連絡事項等 5 閉 会		
出席者	日本料理鶴来家 専務取締役 青木 甫子 有限会社池原印刷所 池原 寿子 花重 磯貝 正子 フリーランス(翻訳) エマ パーカー 有限会社二葉デンキ 代表取締役 加藤 康太郎 BASE968 取締役 小出 薫 加賀の井酒造株式会社 第18代蔵元 小林 大祐 おもちやや木のこ 代表 齊藤 里沙 株式会社お米の配達人 代表 園田 岳彦 リノベーションスクール@いといがわ 企画者 藤岡 あかね EKIKITA WORKS 代表 本間 寛道 リノベーションスクール@糸魚川 企画者 松木 美沙子 株式会社清耕園ファーム 横井 藍 外部アドバイザー 西村 浩(座長)		
会議概要			
1 開 会 2 あいさつ(座長) 今日、駅北まちづくり戦略(案)ができあがったのでこの後にご意見もらいたい。 会場に来る前にキターレに立ち寄り活動の記録を見てきた。皆さんに使ってもらえる施設になってきていることがわかった。そのなかでInstagram講座というのをしている津軽さんという人と、たまたまキターレで話をするのができた。彼のようなクリエイティブ人材が育っていることが大事だと思って1つお願いをしてきた。技術があるなら高校生に動画の作り方等を教える講座を続け、来年の9月までにチームを作り、会社を作ってくれと。チームの学生も視野を広げることができ、お互いに良いのではないかと話をした。応援してほしい。なぜこのような話をするかというと、あそこの場所は、人材が巣立っていく場所。町中に新しい人材を生み出していく起点になったら良いなと考えている。 これから戦略案の意見等をお聞きするが、言いたいのは始まりであるということ。皆さんから、これから行動を始めるとしてほしい。			

3 議 題

(1) 駅北まちづくり戦略について

＝資料説明＝（事務局）

（座長）暮らしの風景の補足ですが、駅北を回ってもらって描いてもらった。老眼鏡を外して見てもらうような絵になっている。よく探すと私がいるみたいになる。この絵に登場する人物を増やしていく、書いていくことが必要。どんどん、進化していく絵を実践者で共有しながら活動していく原点になればと考えている。

（座長）戦略（案）について意見があればどうぞ。

（委員）37ページの表中のにぎわいの拠点施設の機能について、駅北地区は商店街であることから、どのように経済を回していくかという点について、観光と経済の言葉を入れてほしい。

（事務局）複数分散型のまちづくりのなかで、子育て支援を中心にした機能としている。具体的にどこまで盛り込めるかは、新年度以降の検討委員会での検討になる。何でもは無理だが、子育て支援機能を中心にどのようなものが、まちの機能強化につながるのかを考えていきたい。

（座長）複数分散型のまちづくりは、再開発ビルのように1つの場所に集約していくという考えでなく、まちなかに機能を分散して巡るという行動を促したい考えが見えてくる。商業も観光は「巡る」という行為についてくるし、その結果として生まれてくるもので、表の機能のところに記載するかしないかというよりは、機能の表の右側に結果として波及することであって、戦略（案）ではそこにつながる仕組みを盛り込んでいると思う。

商店街の衰退は全国で話ができるが、衰退した歴史を見てみると車社会と人口減少に関連している。急激な人口増加がでてきて、車によって郊外に住むようになり、商業モールなどができてきた。結果として、住まなくなったことが一番の原因。まちなかに住むことや足を運ぶことが、結果として商業振興や観光振興に繋がる循環をつくるのが大切。にぎわいの拠点施設の機能にいれていくことは今後の議論で良いと思う。

（委員）引き続き、検討委員会での整備検討となれば、「子育て支援等」と含みのある表現が良いのではないかと。

（座長）銭湯などの話もでていたが、行政だけではできない話なので、民間がしっかり投資でき、行政と連携できるモデルを作ることが大切だと思う。子育て支援の表現は「等」の含みがあっても良いと思う。

(2) 意見交換「わたしのまちなか大家族」

（座長）委員の皆さんから、戦略づくりに関わった感想であったり、まちへの活動への意気込みなどお話しいただければと思います。

（委員）感想ですが、駅北には町や子どものことを想って、活動したり暮らしている人が多いと感じた。実践者、当事者でいようと思ひ、話も何でも散らかってはいけないと会議に臨んできた。自分は子育て世代で、駅北は子どもが少ない印象だが3つの自治会で小学生20

人ほど居る。まちなか大家族というスローガンで、子どもをから大人までが何気ない声かけが多くなると思う。駅北でお店をしているがキターレができて人の通りが変わった。高校生が夕方に勉強する姿を見るようになり良かったと思う。コロナ禍の経済政策など、自分でお客を呼び込む工夫があるなど考えている。

(座長)「ほしい」という言葉簡単に言えるが、それを「やる」に変えるにはどうしたらよいかを訓練することがいいと思う。1人では無理なので仲間を増やしていくことが大切。子育て部会だけど、行政に任せた子育て支援だと全国どこにでもある子育て支援になる。まちなか大家族ということで、子育ては家族でやるが原点にあると思うし、糸魚川市ならではの子育てのサポート等を編み出すことを子育て部会は考えてもらおうと良いと思う。最初は行政側も戸惑うと思うが、地域住民と連携していくということが必要と思う。

(委員)糸魚川で初めての子育てで、田舎は子育てしやすい想像があった。都会の方が優れている点もあったりしたが、これをあきらめる必要はないと感じた。糸魚川で子育てしやすいと思う点は、みんな声をかけてくれるところ。既にまちなか大家族になっているのではないかと考えていて、この関わりが糸魚川らしさと思う。1人で子育てしている、頑張っているお母さんに伝われば、もっともっと子育てしやすい地域になると思う。諦めなくていいと思うところは、都会では雨の日でおもいきり遊べる場所があったりとか、100人の親子が集まったりする場づくりを諦めずにやっていきたいと思う。

(座長)絵に描いているとおり町中が遊び場。空いていることは可能性がある。昔、土管の仮置き場があのような原っぱがあったが、あの昭和の風景のなかで子ども達は遊んでいた。もう少し、空いてしまっている状態をポジティブに考えていくことが必要。いいことだけでなく、空いているところを安全に遊べる場に増やしていけるよう、みんなで悪だくみを考えてほしいと思う。委員も市外からお嫁さんに来ているが、福島県の地域おこし協力隊でコミュニティを築いた人が言っていたことで、移住等では窓口になる人が大事だと。市外から来た人の間に入って、地域とつなげることをやれるともっと良いと思う。

(委員)外国、東京で暮らし、今は糸魚川で暮らしている。月に1回は東京に行ってリフレッシュしていたが、コロナ禍で行けなくなり、リフレッシュできる場所を市内でつくるチャンスと感じた。イベントを通じて同じく感じている人が交流していくことが良いと感じていて、やっと再来週に子どもの洋服の交換会を実施することになった。

(座長)仲間は大事で、何事も1人でできない。他にない子育ての仕方があることが糸魚川らしさの子育て。常にポジティブに捉えてどうやって暮らすかを考えていくことが面白い暮らしにつながると思う。外国などそれぞれ地域の経験があれば、発想もたくさんあるのではないかとと思うので、楽しんで活動してほしいと思う。

(委員)個人的には、糸魚川で育ったなかで不安も困ったこともないが、今回の話し合いのなかで皆さんが抱えている課題などを話し合っていくことは良いと感じた。壁があったりしても、人が多かった昔は人材が変われば活動や事業のアップデートできたが、今は同じ人が考え方をアップデートできるかどうかは鍵だと思う。まちなかの機能として、何かを変えたいなと思う人が駅北に来て考え方が更新され、感化され、仲間になっていき、解決されていく展開は良いと思う。あとはバックグラウンドと土壌が大切だと思うが、それらを

つなげていけるもので自分の力を貸していきたい。

(座長) 戦略づくりと一緒にやって良かったと思うのは、解決したいことを積極的に話し合ったこと。時代も変わるし、そのように考え方を変えていくことが必要。意識しないと何も暮らし方を変えない閉鎖的な慣習となるが、ちょっと変えたほうがいいんじゃないかと気づき始めると、暮らし方や社会が変わってくるので、意見を交わすという場を作ることが大事。

(委員) 高齢者部会だったが、高齢者だけでは農園や高校生などのアイデアはでない。自然に健康になって生き生きと暮らせるということが良いと思った。商店街にいて経済的なこともあるが、居心地の良い場所という風に思ってもらえる商店街になれるようにまちなか女子部の活動を進めていければと考えている。

(座長) 商店街は郊外のモールに負けない価値はある。郊外モールは全国一緒。商店街の良さを徹底的に活かしながら、居心地の良い場所にする事で人は戻ってくると思う。

(委員) 高齢者部会に参加させていただいた。まちづくりは人間関係の積み重ねからできている。試行錯誤を繰り返しながら、人任せでなく、市民ひとりひとりが関わっていければ良いと思う。戦略(案)をみて、私の気持ちが組み込まれているなど感じた。会議の感想として、宿題なども多く新しい会だなどと思った。世代等の違う方々とも話ができて良かった。1月に来てくれた逢坂さんの大東市が子育ての関係の報道で「子育てするなら大都市ではなく大東市」のキャッチコピーが良いなどと思った。

(座長) 言葉は大事と思うし、「まちなか大家族」という言葉がまちのイメージを作りあげ、市外から来た人も親しみやすく安心できるのではないかと。当事者である皆さんの声を拾い、作り上げたものを計画にすることが一番良い。もっともっと良くしていくことができればと思う。

(委員) 委員の発言を行政でまとめてもらいたいと思う。自分も勉強させてもらった。部会でブランドを考えられたらと言っていたがなかなか実現できていない。人口減やコロナなどの社会変化にも対応できない。自分の事業がまちのためになるのかと考えながら事業をしていくことが大切と感じた。そのような気づきからの視点を失わず進めていきたい。

(座長) 委員はビジネスマンと思う。とあるシンポジウムでサラリーマンとビジネスマンの違いを言っていた。サラリーマンは時間を売ってひたすら上司の指示を聞く人、ビジネスマンは自分の事業と地域課題を自ら解決していく人。委員の事業は地域課題を解決するビジネスであり、駅北で展開されることに期待したい。

(委員) まちづくり会議で、実践活動を考え、戦略(案)としてできあがったのは良かった。基本的に町は人が暮らしていくことで、経済が成り立ち大きくなっていくものと考えている。大火のあとキターレもできて、昼間は高齢者の方がいるし、夜は高校生がいる場になってきていて、そういう人が巡ることで、経済も追いついてもらえればと願っている。これから地方で生き残るには、1人で儲けるのではなく、全体で良くなければいけないと考えている。まちなかの各々がまちなかを巡る策を講じていくことで糸魚川のまちが良くなっていく。地産地消部会に参加して、酒蔵さん、農家さんとの多くのつながりもできて良かった。

(座長) コロナで分かったのは、外に頼らなくても地元でいいと分かったこと。食、職、住、商、遊の5つがまちなかにコンパクトに存在していればお金は町から出ていかない。これをマネジメントする独立経済圏のようなものが複数あることが大事。

(委員) 部会の途中から参加させていただいたが、皆さんが普段からよく物事を考えていることに興味した。中山間地に住んでおり、まちなかは銀行などの用事をとる場だったが、立ち寄る場所が増えたことはありがたかった。難しいと感じているのは、ミニ農園、料理教室だが、種をまいて終わりでないのだからそこからどのように世話をしていくかなど意外と大変なところもあった。当事者になればいいが、1人では無理なので仲間を見つけないながら実践していけるような関係性が続けばいいと思う。

(座長) 単純に木が生えているだけでなく、風景イラストにあるミニ農園がある暮らしは魅力的。まちなか大家族なので助け合いながら活動を継続していただければと思う。

(委員) 今日から共場コモンズで営業しているが、キターレではいろいろなチャレンジができて参考になった。施設を往来することもあるが、キターレと共場コモンズを往来しているお客がおり、この輪を大きくできればいいと感じた。これから、共場コモンズでいろいろ企画してみたいと思い、小さなマルシェとしてランチに利用している食材を店頭において販売したら、完売した。1つの場が盛り上がるとその通りの人も来てくれて、自分自身いいことしていると感じたし、その通りも活気づく気がした。

(座長) キターレという場所はスタートアップの場として、最終的にまちなかに出ていくことが正解。点を作って人を引き付ける魅力的な場所がまちなかに増えていく。小さなマルシェなど仲間を作って、着実に連携しながら魅力的にしてほしい。

(委員) 自分も途中参加。6年前に、にぎわいづくりの一助にと商店街に関連して八福神のおかきを作って販売した。最近、駅北にいくと人の流れが変わったと思っている。コロナ禍のなかでお米や野菜などの直接購入を希望する人も多くなったので、キターレなどを拠点に広げていきたい。若い世代の農家が少ないので、地産地消の活動を通じて子育て世代に農業を知ってもらいたい。

(座長) 子どもの頃から、当たり前のように「農」に関わるのが大切。10年後に効果がでてくる。

(委員) Iターンで糸魚川に来たが、まちなか大家族のキャッチコピーは良いと思った。今となっては住みやすい、子育てしやすいまちだと感じている。自分はまだまだ何もできていない状況と感じているが、大火後にいろいろ声をかけてもらい、地域に恩返しがしたいなと思っている。駅北ワークスの活動が地域への恩返しになればと思うし、自分の子どもが糸魚川で育って良かったなと思えるまちにしたいと思う。

(座長) 子どもも大人もまちで良い体験をしてもらいたい。良い体験は子どもも大人になるまで覚えているし、良い体験のために大人が行動を起こすことが大事。

(座長) 最後に、当初から自分でやるという人を基本に声をかけさせていただきました。行動する人がいないとまちは変わらない。行動するには、無理をしない状況で生業としてやりつづけなくてはならない。昔は、まちづくりという言葉がなくても幸せな暮らしができてい

た。しかし、近年になって課題が出てきて、解決しない状況がでてきて、「まちづくりをしよう」というということになった。本来は一人一人が連絡をとって幸せな暮らしをしていれば、まちづくりをする必要はない。今後は皆さんが連携して「まちなか大家族」を作っていくことが大事。これまでの議論や講師からの知見を得て、自分の発想などが変わったこともある。今後、世代を超えて一緒になって行動できるまちなか大家族を作ってほしい。

4 連絡事項

- ・官民連携まちづくり塾（オンライン研修）の紹介
- ・次回、実践会議について
- ・委員撮影の協力依頼

5 閉 会